

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 新居浜市立泉川中学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例: 小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒792-0825

愛媛県新居浜市星原町7番8号

E-mail izuj-ad@esnet.ed.jp

Website http://izumigawa-j.esnet.ed.jp/

幼児児童生徒数 男子 123名 女子 118名 合計 241名

幼児・児童・生徒の年齢 13歳 ~ 15歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

3. 活動内容

(1) 活動の概要

本校は、「地域や社会に生きる一員として、公のために行動する」を活動テーマに、ESDを「人と人がつながる活動」の手段と捉え、ESDの実践を通して「地域や世界の人々と協働・連携を円滑に進めるためのコミュニケーション能力の育成」「次世代を考慮して生活する力(世代間倫理)の育成」を目標とした。

具体的には、防災学習、環境学習、福祉学習を柱に、①防災に係わる活動、②環境保全に係わる活動、③卒業生や小学生との交流、④福祉に係わる活動、⑤他地域の中学校との交流を行った。

① 防災に係わる活動

本年度初めて、遠足を防災の観点から捉え、本校2年生が同じ校区の小学校2年生の手を引いて遠足場所に行き、合同のレクリエーション、地域の炊き出しによる昼食、そして、自宅まで送り届けるという「防災遠足」を実施した。最初から最後まで生徒は目を輝かせながら主体的に活動した。地域の方に見守られながら中学生が小学生をエスコートする姿は、まさに中学生の地域貢献の在り方を示すものであり、実施前に予想していたものをはるかに上回る教育効果を感じた。

② 環境保全に係わる活動

約10年前から続いている「大好き泉川の日（地域主催で毎月第2日曜日に行われる環境美化活動）」の運営を、本年度より本校奉仕委員会が担うこととした。校区内を自分たちの目で確認し、どこをどのようにきれいにしたいのかを企画・立案して泉川校区まちづくり連合自治会環境美化部に掛け合うことは、中学生にとって大変なことだが、回を重ねるごとに充実した活動になっていった。その結果、多くの地域の方々や全校生徒の約半分（例年の5倍以上）の参加にまで成長し、自分たちの手で地域を美しくしていこうと大変意欲的な活動に生まれ変わった。

③ 卒業生や小学生との交流

夏休み、冬休みを利用し、公民館等で「学習会」を開催した。本校卒業生と連絡を取り、講師として招いて本校生徒の補充学習を行った。夏休みは小学生も参加し、中学生が講師の立場も体験した。この活動を通して、普段は接する機会の少ない異年齢の児童や高専生・大学生とじっくり交流でき、地域の中での自分の役割を考える機会にもなった様子である。

④ 福祉に係わる活動

本校には「奉仕の日」いう、半日を掛けて資源回収行う日が年間3回ある。ただ単に自宅から資源を持ってくるだけではなく、事前に地域に出向いて実施の意図を伝え、当日は地域を回って各家庭の資源を回収する。30年以上も続くこの活動は、学校と地域を何度も往復し、たくさんの地域の方々とコミュニケーションを取ることができる本校伝統の行事である。お年寄りや独居の方々に大変好評であり、地域の方から頼りにされる体験や、感謝の言葉を受けることは本校生徒にとって地域貢献を行う際の励みにもなる。また、異世代との交流の大切さを理解し、よき伝統を次世代へ引き継いでいく責任と自覚をもつために最適の伝統行事と言える。

⑤ 他地域の中学校との交流

山口県光市立浅江中学校（コミュニティ・スクールの先進校であり、循環型社会を地域とともに目指している）を地域の方とともに訪問した。両校合同のリーダー研修会では、圧倒的なプレゼンテーション力を発揮する浅江中の生徒やそれを支える地域の方々の姿に、本校の生徒も教師も、そして地域の方々も憧れを抱いた。次年度もこの交流を予定しており、今度は光市全域の中学校と合同でリーダー研修会を実施し、交流することになっている。地域を挙げて循環型社会の構築に向けた取組を充実させていき、また、プレゼンテーション力の向上をESDの実践を通して高めていきたいと考えている。

災害時 みんなの役割は

学校運営に地域が参画するコミュニティスクール（地域運営学校）を導入している新居浜市泉川校区の小中学校合同の防災遠足が2日、国領川河川敷であった。泉川小学校の2年生約80人と泉川中学校の2年生約70人が交流しながら災害時の役割を考えた。昼食は炊き出しをした。



新居浜・泉川小中が防災遠足

地域住民からカレーを受け取る小学生と付き添いの中学生(右)想定し、地域住民らが公民館で作ったカレーを河川敷に運んで配膳した。班に分かれた中学生が小学生を引率してカレーを受け取り、青空の下で一緒に嬉しかった。中学生は小学生が喜ぶゲームやだっこ、おんぶのリクエストに応え、名前を呼び合いながら距離を縮めていた。普段は中学生と交流がないという丸本詩雨君(7)は「鬼ごっこをし、好きな動物の話をしりして楽しかった」と声を弾ませた。中学生は近くに住む小学生の手を引いて、家まで送り届けた。小学生の妹がいる住吉ひなたさん(13)は「遠足の経験をかして近所の小さい子を気にかけていく。災害が起きたときは地域に貢献したい」と話していた。(梅林恭子)

愛媛新聞・朝刊 2017/05/03

① 防災遠足について掲載された新聞記事

無断転載、複製及び頒布は禁止します。



② 「大好き泉川の日」の様子



③ 夏休み「学習会」の様子



④ 「奉仕の日」の様子



② 合同リーダー研修会の様子

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(夏休み、週休日)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

今日よりいいアースへの学び ESD持続可能な開発のための教育(文科)

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

ESD活動を各教科の観点で捉えなおし、ESDカレンダーを作成している。その中で教科横断的な取組ができるよう、各教科及び道徳・学活や総合的な学習の時間がどのように関連しているのかを、一目でわかるよう一枚の紙にまとめている。「今、何を学んでいるのか」が分かるようにしている。また、本校のESD活動の柱である「防災学習、環境学習、福祉学習」に関連する教材や取組を色別に区別し、ESDカレンダーを見れば、「今、学んでいる（取り組んでいる）ことは〇〇につながっていくのだ」と、教師も生徒も把握できるようにしている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

本校は本年度よりコミュニティ・スクール（C・S）となった。「地域とともにある学校」として、地域で育てたい子ども像を掲げ、その実現に向けて各種行事や日々の活動に取り組んでいる。このC・Sは、循環型社会を実現する機能とも言え、教職員が異動しても地域を主体にシステムが残るというメリットがある。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学校評価については、生徒・教職員・保護者について、表現は多少違うものの同じ内容のアンケートを実施している。また、その結果をまとめ、考察したものを学校運営協議会で熟議し、意見交換を行った。そして、それらをまとめたものを紙媒体及びHP上にて生徒・保護者・地域に広報している。今年度の「あなたは進んでボランティア活動やESD活動に参加していますか」の質問に対する保護者の結果は下がっていた。ESDという言葉や内容を理解できていないためと考えられ、地域や保護者に更に周知徹底させていきたいと考える。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

学校通信やHPを通じて活動の報告を行っている。また、近隣の市町をカバーしているケーブルテレビの取材を受け、それをもとに地域に発信を試みている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

泉川校区まちづくり連合自治会や交通安全協会泉川支部、民生児童委員協議会、子ども見守りボランティアの会などと連携・協働し、「地域とともにある学校」を目指して活動している。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

ユネスコスクールではないが、同じコミュニティ・スクールの国内最先端をいく学校との交流を行っている。本年度は生徒会役員、1.2学期学級委員、教職員、地域の方々と交流を行った。来年度は同じ中学校が属する市内の全中学校との交流が決定している。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

今まで受身であった教職員や生徒が、目的・目標を共有できたことによって積極的な取組に変わっていった。また、多忙感を感じていた教職員が見通しをもって活動できることが増えたことにより、多忙感の減少につながった様子である。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

これまでに行われてきて行事について、今年度は「何のためにやるのか」「その教育的効果は何か」「ESDの観点で捉えるとどうなのか」という視点で考え、取捨選択し、改善を加えてきた。そのどれもが充実したものへと生まれ変わった。来年度も更に工夫改善を加えていき、循環型社会を築いていくための素養を育む活動となるよう、地域とともに考え、実践していく予定である。そのため、委員会活動等も地域と連携した形に編成し直していく。